

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：総務管理費 目：広報費

事業名 県政広聴事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

知事直轄 広報課 管理広聴係 電話番号：058-272-1111 (内 2132)

E-mail：c11103@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,485 千円 (前年度予算額： 5,919 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,919	0	0	0	0	0	0	0	5,919
要求額	6,485	0	0	0	0	0	0	0	6,485
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・県民の生活、意識を継続的に調査し、その変化を的確に把握することは、県の実施する各種施策の基礎資料となっている。
- ・随時県民の率直な意見やニーズをアンケート調査や会議等の機会を通じて、聴取・把握することで、将来にわたる県政の進むべき方向、重点的に取り組む施策を見極める資料となっている。
- ・そのため、県民が県政に対する意見・提案を表出する機会を常に確保し、県政広聴事業を継続して実施することで、県民の県政への参画を促進する必要がある。

(2) 事業内容

- ・県民の声を正確に把握するため、無作為抽出法及び公募により対象を抽出した次の調査を実施する。

○県政世論調査 (S42～)

調査対象	県内に居住する満18歳以上の男女個人
標 本 数	3,000人
抽出方法	層化二段無作為抽出法
調査方法	郵送法・オンライン調査法
調査時期	令和8年7月(予定)

○県政モニター事業 (H5～)

資 格	県内に居住する満18歳以上の男女個人
募集人数	600人
抽出方法	公募
調査方法	オンライン調査法
調査時期	令和8年6月、8月、10、12月(予定)

- ・ こども若者県政モニター（R7～）

資 格	県内に居住する小学生～高校生世代
募集人数	600人
抽出方法	公募
調査方法	オンライン調査法
調査時期	令和8年6月、8月、10、12月（予定）

- ・ 若者未来デザイン会議（R7～）※旧若者ガヤガヤ会議
こどもや若者と知事が、県政や社会課題などについて意見交換をする場として開催。

（３）県負担・補助率の考え方

県10/10

（県政推進のための基礎資料を作成するものであり、県が主体となる。）

（４）類似事業の有無

無

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	186	若者未来デザイン会議の開催・打合せに係る旅費
需用費	470	若者未来デザイン会議に係る消耗品費 県政モニター及びこども若者県政モニターに係る消耗品費
役務費	452	県政世論調査及び県政モニターに係る郵送代
印刷製本費	233	県政モニター及びこども若者県政モニター募集に係るチラシ・ポスター作成費
委託料	5,099	県政世論調査の実施及びこども若者県政モニター特典送付
使用料及び賃借料	45	若者未来デザイン会議に係る会場使用料
合計	6,485	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）国・他県の状況

41の都道府県が県政世論調査事業もしくは県政モニター事業を実施

（２）後年度の財政負担

毎年度同規模で実施する。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県政推進の基礎資料とするため、県民の意識・県政に対する評価等をより正確・具体的に把握する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
若者広聴事業の 参加人数		265人	700人	700人	2100人	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<p>○若者ガヤガヤ会議 【開催実績】 計4回開催（参加人数：46名） 【対象者】 高校生、大学生、若手社会人、若手外国人 【テーマ】 若者の投票参加について 地方創生について など</p> <p>⇒全70事業（うち新規8事業、拡充13事業）を令和5年度当初予算に反映</p>
令和5年度	<p>○若者ガヤガヤ会議 【開催実績】 計5回開催（参加人数：60名） 【対象者】 高校生、大学生、若手社会人、若手外国人 【テーマ】 若い世代の食育の推進について 多文化共生について など</p> <p>⇒全96事業（うち新規6事業、拡充14事業）を令和6年度当初予算に反映</p>
令和6年度	<p>○若者ガヤガヤ会議 【開催実績】 計10回開催（参加人数：265名） 【対象者】 中学生、高校生、大学生、若手外国人 【テーマ】 魅力的な県にするために ヤングケアラーについて など</p> <p>⇒全168事業（うち新規10事業、拡充18事業）を令和7年度当初予算に反映</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	R7.3月に策定された県こども計画を踏まえ、こどもや若者が意見表明できる機会の創出が今後さらに求められることから、必要である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	若者未来デザイン会議及びこども若者県政モニターで聴取した意見について、積極的に県政に反映させる取組みを行っている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	若者未来デザイン会議では、オンラインでの打ち合わせを活用するなど、効率的かつ柔軟に実施に向けた調整を進めている。 こども若者県政モニターは、経費を抑えるため、インターネットによる公募形式を採用している。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 より多くの意見を聴取し、県政に反映できるよう取り組んでいく必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 若者未来デザイン会議では、会議終了後に実施したアンケートにおいて、ほぼすべての参加者から「満足」との回答をいただいております、参加者にとって有意義な場となっている。今後も、参加者が社会課題を“自分ごと”として捉え、積極的に政策提案を行えるような会議を開催する。 こども若者県政モニターについては、モニターの人数を増やし、より多くの子ども若者の意見を聴取できるよう取り組む。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】